

平成29年度 学校関係者評価報告書

学校法人水野学園
専門学校 ヒコ・みづのジュエリーカレッジ大阪
学校関係者評価委員会

学校法人水野学園 専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ大阪「学校関係者評価委員会」は、平成28年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

1. 開催日 平成30年8月29日(水)

2. 学校関係者評価委員

・ 関連業界等関係者

藤本 久幸 様
山内 秀夫 様
松本 薫 様
清 順一 様

大阪ジュエリー工芸協同組合
大阪ジュエリー工芸協同組合
一般社団法人 日本時計輸入協会
株式会社ウォッチラボ

理事長
副理事長
専務理事
代表取締役

3. 水野学園からの参加者

酒匂 博
松山 英一

専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ 教育部長
学校法人水野学園 総務部長

4. 評価方法および評価点について

- ・ 会則に基づき、学校関係者評価委員は、自己点検評価の結果を評価する。
- ・ 評価点は、学校関係者評価委員の評価点の平均値を表記した。
★評価点基準・・・ 4=適切 3=ほぼ適切 2=やや不適切 1=不適切

5. 評価項目ごとの学校関係者評価

項目 1	教育理念・目的・育成人材像等		評価点平均	3.67
【現状】	1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	1966年創立時に定められていた理念は再度推敲され、2015年より多校化に合わせたものとなった。これらを学生ハンドブックに掲載することで、学生全体への周知が進められている。大阪校では教育理念を1階廊下に掲示している。	
	2	学校の将来構想を抱いているか	毎月2回実施される「経営会議」において、構想および検討がなされ、両校を通じ社会人教育の充実を図っていく必要性が話し合われた。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>前年に引き続き文部科学省が求める3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）のうちディプロマポリシーについて、具体的な検討が行われた。未だ最終決定には至っていないが、職能教育を軸とする専門学校として、身に付けた技術を社会に還元できる「仕事力」のある人材像が卒業生としてふさわしいとの合意が生まれた。</p> <p><課題・今後の改善方策等> これらを学内で醸成させるためには、学務スタッフ・教員が一体となった職場づくりが必要、大幅な組織改革の必要性がある。また、本学園が目指す「仕事力のある人材像」について、各企業へどのように周知していくべきかも検討していきたい。</p>			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。			

項目 2	学校運営		評価点平均	3.83
【現状】	3	教育理念・目的等に沿った運営方針を定めているか	学校の理念、目的、育成人材像をふまえ、「経営会議」にて運営方針を定めている。設定された運営方針は、各部署長を通じ、全教職員に周知されている。	
	4	中長期的な事業計画を定めているか	「経営会議」において、水野学園全体の事業計画を定めている。2017年度は中長期計画5カ年計画を策定した。初年度として、2022年までに新分野の学校開設を目標とし、その調査、可能性の検討を開始した。また、専門職大学の制度化に対して、本学園として移行が適切かどうかの調査会・検討会を実施した。	
	5	運営組織や意思決定機能は明確化されているか、また有効に機能しているか	理事長、学校長、各部門長により、毎月2回「経営会議」を実施し、学校運営全般についての情報の共有ならびに意思決定を都度実施している。また、全教職員を対象とした「教職員会議」を年10回実施し、全教職員への運営方針の周知徹底を図っている。	
	6	人事・給与に関する規定等は整備されているか	人事・給与に関する規定「就業規則」「給与規程」等、自由に閲覧できる環境を整えている。“採用、試用期間、休職等”については「就業規則」に記載され、“昇給、各種手当、賞与等”については「給与規程」にて明確に定め、適切に運用している。	
	7	情報システム化等による業務効率化が図られているか	専任の情報システム担当職員を置いている。各部署のデータを共有し、学生サービスおよび業務効率を高めるべく、システムを構築・運営している。学生管理においては柵サーバネットの「School Leader」を利用し、大幅な業務効率化が図られている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>上記の通り、しっかりと実行されていると評価できる。</p> <p>少子化が進む中、学校運営をさらに安定させていく上で、新しい学び需要の発掘についての事業計画を設定した。様々な角度から分析・検証し、安定した学校経営のためにしっかりと取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>専門職大学への移行は、校舎面積・敷地面積の基準に大きな格差があり、現状では健全な学校運営に支障が出ると判断し見送られた。</p> <p>2018年度も安定した学校運営のための施策を検討すべきと考えている。</p>			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。			

項目 3	教育活動		評価点平均	4.00
【現状】	8	各コースのカリキュラムは目標が設定されているか、また体系的に編成されているか	各コース、学年での教育到達レベルが設定されており、そこに到達するためのカリキュラムが体系的に編成されている。カリキュラム内容については日々活発に意見が交換されており、2017年度も見直しを行った。	
	9	教育方法は適正か、また授業評価の実施・評価体制はあるか	定期的に外部講師による教員研修を実施し、授業や指導方法の改善点を指摘し相互評価を行っている。また授業評価に関しては、学生による授業評価アンケートを9月に実施し、学生による評価も教員にフィードバックした。	
	10	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	学内に教育部長及びシニアコースディレクターの職責をもった教員をおいている。	
	11	教員組織体制が確立しているか、また教員間の連携・協力体制を構築しているか	学校長以下、教育部長、コースディレクターが教員組織を取りまとめており、組織図を共有して指揮命令系統を明確にしている。カリキュラムの交流、学校行事ごとの分科会などを通じて、教員間の連携・協力体制は整っている。	
	12	成績評価や進級・卒業認定の基準は明確になっているか	学則にて明記されており、学生ハンドブックにて周知している。進級・卒業認定は、筆記試験・実習課題成績により認定されている。	
	13	資格取得の指導体制はあるか	学生および教員自身の資格取得に際する指導体制が整っている。貴金属装身具技能検定については放課後にゼミを実施。3級で26名、2級で15名の希望者に指導を行った。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> 2016年度よりウォッチメーカーコースが開講し、評価委員の皆様のご意見や毎月の教職員会議および教員ミーティング等を通し、コースを超えた意見交換の上でカリキュラムの検討・見直しを実施している。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 今後も様々な意見を取り入れ、就職を念頭に置いたカリキュラムや、学生が主体的となって授業を受けるようなセミナー等を実施する必要があると考えている。</p>			
【関係者評価・意見等】	<p>自己点検は、概ね適切と思われる。</p> <p>授業評価アンケートに関して学生からどんな意見があったか興味がある。</p> <p>資格取得に関して、卒業後の国家技能検定1級取得についても情報を知りたい。</p>			

項目 4	学修成果		評価点平均	3.67
【現状】	14	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2018年3月31日現在、全学科平均の求職者就職率は97.9%(昨96.4%)で、昨年同様、高い結果を残した。特に2017年度に初めての卒業生を輩出したウォッチメーカーコースでは100%となり、修理職での内定はそのうち50%となった。 東京・甲府企業見学旅行及び学内合同企業説明会も2年目を迎え、合わせて10名の内定者を出した。2018年度は大阪校で初めてのリクルート内覧会「HELLO OSAKA」を7/12に開催し、36社の企業様にご来校いただいて学生とのマッチングに大きく貢献していることから昨年を上回る結果に期待している。	
	15	資格取得率の向上が図られているか	ジュエリーコースにおいて例年指導している貴金属装身具製作技能検定の受験結果は、2級合格率50%、3級合格率93.5%と前年を上回り全国平均を越える結果となった。またウォッチメーカーコースにおける時計技能検定3級合格率は89.5%、2級合格率は75%となり、東京都平均2級47%、3級66%と比べても合格率が大きく上回る結果となっている。	
	16	在校生・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	在校生に対しては外部の各種コンテストや発表会・展示会などに参加することを奨励し、卒業生に関しては、同窓会や教員、学務スタッフとの関係を通じ、その活躍の把握に努めることとしている。在校生・卒業生の実績は「入学案内」やホームページなどで常に紹介し、在校生の学習意欲の向上や、卒業生への情報発信、入学検討者等への学校PRに役立っている。また2018年2月には、大阪校開校10周年記念パーティーを実施し、1期生から9期生までの卒業生のうち49名が参加した。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	2017年度は、高い就職率を維持することができた。次年度以降も、企業が求める人材を輩出できるように努めていきたいと考えている。2018年度は大阪校では初開催のリクルートイベント「HELLO OSAKA」を開催し、さらに企業様とのマッチングを進めている。また就職率が高い一方で、就職者の早期離職が今年5月までに4名あったことを受け、内定者への就業意識を高めるフォローアップが急務となっている。 資格取得に関しても授業外のトレーニングが実を結ぶ結果となっており、2018年度もこれを上回るよう指導を続けている。			
【関係者評価・意見等】	就職率に関して、留学生の就職率はどうか。留学生の語学力(母国語)も商品になるのでそういった情報も業界に頂けるとありがたい。資格取得率向上に関して3級の合格率は素晴らしいが、不合格の学生へのフォローはできているか。自由作品を作らせる。また共付けなどを学ばせることも大切だと思う。「マイスター制度」を利用して技術力向上や、技能検定の対策をしてほしい。(何かしら検定のアドバイスをもらえると思う)開校10周年記念パーティーに関して、卒業生を集めるイベントは学校運営で大切だと思う。是非続けていただきたい。早期離職に関しては相談窓口を設けるなどして対応してほしい。また事前に就業に関するレクチャーを行ってほしい。			

項目 5	学生支援		評価点平均	3.67
【現状】	17	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	進路相談室主催のキャリアガイダンスを卒業前年度12月から実施し、業界知識や業種職種研究、求められる人材像の説明および自己分析を指導した。企業就職希望者に対しては、2月以降進路個別面談を通じ就職活動のための具体的なノウハウ指導を行うと同時に、専用のWEBサイトにおいて求人の公開を行った。進学、留学に関しては、進路相談室においてすべて個別相談で対応している。	
	18	中途退学者が継続して学びたい場合の支援体制、または代替えコースが設置されているか	ジュエリーの途中退学者に対しては、キャリアスクール(付帯教育、昼夜、時間登録制)への転校を進めている。一部の退学者は、授業単価も割安で、提出期限のない課題を自分のペースで学べるこのコースを選択する場合もある。専門課程での再受講を希望した場合、途中退学・除籍者であっても、再入学の資格を認めており、試験等で合格すれば、再入学を認めることにしている(2017年度は実績なし)。	
	19	学生相談に関する体制は整備されているか	従来通りクラス担任と担当教務の連携による学生の就学指導は良く機能している。また、学生が学校長に直接意見をメールできる制度の運用などを通じ、より細かい学生の相談体制を構築している。	
	20	学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか	日本学生支援機構等、公的奨学金以外にも、家計の急変や転科による就学年数延長者に対しての水野学園独自の授業料減免制度などを設置運用している。また、学費の分納、延納などに対しても、学生個々の状況に応じて学務課にて個別相談を行っている。	
	21	学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか	学校保健法に基づき、5～6月に全学生の健康診断を実施した。診断結果が悪かった学生には、健康管理について個別に案内・指導している。また、学内においての学生の急な傷病に対しても、保健室やAED装置の設置をはじめ、救急箱の完備や緊急搬送医院の一覧マニュアルなども完備しているほか、教職員の上級救命講習受講を義務付けている。	
	22	保護者と適切に連携しているか	2017年度も、7月と12月に、学生の出席率、課題提出状況、単位取得状況を、担任の個別コメントを添えて保護者に送付した。この際、保護者に学園全体の教育内容などについて理解を深めてもらうことを目的に「Volare」という小冊子を作成し同封している。	
	23	卒業生への支援体制はあるか	卒業生は全員水野学園同窓会の終身会員として登録され、転職相談や進学等についての支援を受けることができる。2017年度には、優秀な卒業生に対して「同窓会賞」として、独立開業や再進学のための報奨制度を新設した。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、学生支援体制は整備されていると評価している。			
【関係者評価・意見等】	卒業生への支援体制について、学生の理想と現実のギャップが大きく、早期退職してしまうのではないかと。卒業前にギャップを埋める指導が必要かと思う。独立開業や再進学のための報奨制度新設はとて面白いと思う。			

項目 6	教育環境		評価点平均	3.67
【現状】	24	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できよう整備されているか	施設・設備の改修／修繕／交換／導入は年度ごとに計画的に整備をしており、各教室ごとの責任者を決め常に点検している。 2017年度は3階学生ホールに本校蔵書を設置し、学生同士がお互いに知識を向上させる総合コミュニケーションスペースとなるよう環境を整え、スチューデントラウンジとして運用を開始した。 教室設備においては、出来る限り企業で使用している物と同等な工具を使用し、破損などがあれば、その都度修繕交換を実施し、毎年新しい工具を購入している。	
	25	学外学習やインターンシップなどの教育体制を整備しているか	学則カリキュラムにおいて、学年全コースに「学外授業」を義務付けており、毎年、実施している。 実績は以下の通り(抜粋) ジュエリー＝美術館見学(京都国立近代美術館/清水三年坂美術館)、展示会见学(ヴァンクリーフ&アーベル展)、IJK見学、ストーンハンティング(兵庫県朝来市)、ショップリサーチ(心齋橋・難波周辺) ウォッチ＝企業・店舗・工場見学(OMEGA/スウォッチグループジャパン/Breitling展示会/シチズン飯田殿岡工場)	
	26	防災に対する体制は整備されているか	学生対象／教職員対象の2種類の防災訓練を毎年実施。教職員対象の防災訓練においては、災害発生直後から宿泊するまでを想定した実践的な訓練を行っている。 防災マニュアルの作成・完備や緊急地震速報に対応したシステムの設置、5日分の非常食を完備するなど、防災体制を整えている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記の通り、施設・設備等の教育環境や防災体制は整備されていると評価している。 学外授業も多く取り入れており評価している。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。 学外授業に関して、見学・訪問前に外部から関係者を招いて勉強会をするのもいいのでは。学校との人脈形成にもつながる。 防災備蓄に関して、国は5～7日分の非常食備蓄を推奨している。さらに増備してもらいたい。			

項目 7	学生の募集と受け入れ		評価点平均	3.50
【現状】	27	学生募集活動は、適正に行われているか	募集案内の記載内容については学生が明瞭に理解できるよう十分に配慮して作成している。募集内容は、稟議を経て理事長、学校長の決裁を受けて作成されているものであり、学内でのチェック体制は整備されている。資料請求者、入学志願者の相談内容はデータ管理され、個人情報に留意しつつ、適切な対応ができる体制が整っている。	
	28	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	AO入学については全員と面接、推薦入学および一般入学については入学願書・調査書の内容により、どちらも本校で学習することに対する意思の確かさ、粘り強く物事にとり組める姿勢を出願者の選考基準としている。留学生については全員と面接を実施し、日本語能力・学費等支払い能力を総合的に判断する。	
	29	学納金は妥当なものとなっているか	本校が提供する教育内容、施設等や他校の状況、社会全体の経済状況等を踏まえ、妥当な金額であると考えている。金額および支払時期については募集要項に明記している。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>例年通り、適正に実施されている。</p> <p>18才人口の減少に伴い、大学生/社会人向けの広報活動も随時実施している。また、留学生の募集については、留日志向の強いアジア圏からの留学生を中心に広報活動を実施。中国、韓国、台湾のほか、ベトナムやタイ、インドネシアなど7つの国や地域から留学生を受け入れている。</p> <p>2017年度は全学生の21.3%が留学生となり前年度(2016年度)の16.3%を上回る留学生が本学で学んでいる。</p>			
【関係者評価・意見等】	<p>留学生が増えているが日本語力のサポート体制はどのような感じか。</p> <p>学納金に関して、安いからいいという訳ではない。</p>			

項目 8	財務		評価点平均	3.67
【現状】	30	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	入学者の確保や休退学などの離脱者を減らすことにより、健全な財務状況を維持している。また将来5年程度の見込みについて随時分析している。	
	31	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算は、前年度末に翌年の予算案を作成し、理事長・学校長の決意を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて決定している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学校長の承認を受けて、予算を管理・執行している。	
	32	財務について会計監査が適正におこなわれているか	顧問税理士の指導を受けながら適正な会計処理を行っている。2017年度も5月に、監事2名による会計監査を行った。	
	33	財務情報公開の体制整備はできているか	財務情報は学園ホームページにて公開している。関係者より財務諸表等の閲覧請求があった場合は、閲覧規定に則った対応ができる体制を整えている。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、適正に管理・運営されていると評価している。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。募集の際、学生の質の見極めはできているか。教職員の待遇はどうか。スタッフが輝いていれば、学生にいい影響が与えられると思うので、良い待遇を維持してほしい。			

項目 9	法令等の遵守		評価点平均	3.83
【現状】	34	関係法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか、また個人情報保護に関して十分な対策が練られているか	給与規程、個人情報保護規程、文書保存規程など、各規定に則り、法令遵守についての総合的な管理にあたっている。 前述規程等は、教職員室内の常時閲覧できる場所に保管し、適宜確認・利用できる環境を整えている。 顧問弁護士と契約しており、随時相談可能な体制を整えている。 個人情報保護に関しては、個人情報保護規程を全教職員へ説明し、この規程に則って運用している。 また、マイナンバーについても、特定個人情報取扱規程を策定し、適正に運用している。	
	35	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価委員会を設置し、問題点の改善に努めている。	
	36	学校関係者評価委員会を実施しその結果を公開しているか	毎年、「自己点検・自己評価報告書」を元に、学校関係者評価委員会を開催し、その結果をHP上で公開している。	
	37	教育情報の公開は適正に行われているか	前述の各報告書のほか、「学校情報」を各年度ごとに更新し、HP上で公開している。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>学校教育法、私立学校法、学校保健法、税法等の法令を遵守して学校運営が適正に行われている。</p> <p>自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価委員会議事録、2018年度学校情報は、ホームページにて公開することとしている。</p>			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、概ね適切と思われる。			

項目 10	社会貢献		評価点平均	3.67
【現状】	38	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	大阪ジュエリー工芸協同組合様および大阪府職業能力開発協会様にて実施される国家技能検定「貴金属装身具」部門の実技試験会場として大阪校の教室設備を活用していただいている。	
	39	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	現状、奨励、支援は行われていない。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	ボランティアに関しては、学生自身の積極性を尊重し、授業に支障が出ない範囲で支援しようと考えている。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。			

項目 11	国際交流		評価点平均	3.83
【現状】	40	留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか	留学生担当を教務・広報内にそれぞれ配置し、東京校「留学生センター」と連携のもと、在学する全留学生の在留資格管理をはじめ、資格外活動(アルバイト)状況の把握などに努めている。適切な管理は継続されており、東京校は2017年度も入国管理局より「適正校」の認定を受けた。	
	41	グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか	毎年恒例となっている海外大学との交換留学について、2017年度は春期(4月～7月)に1名、香港籍の交換留学生を受け入れた。また本学園からは秋期にドイツに1名を交換留学生として送り出した。	
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記の通り、海外交流は2017年度も実施され、学生にとっても刺激のある1年だった。2017年度は、希望者対象ではあるものの、海外研修旅行も実施、イタリア・オランダを巡り、職人工房やギャラリー、ダッチデザインウィークなどを見学し、見分を広めた。2018年度も本学の特徴でもある国際交流を推進していきたいと考えている。			
【関係者評価・意見等】	自己点検は、適切と思われる。留学生が増えているので、国際学校化を検討するのもいいのでは。日本人学生が海外を目指すのもいいと思う。			